

ご自由に
お取りください
TAKE FREE

2026
Vol. 40

地方独立行政法人
那霸市立病院

梯 きざはし

特集

新病院棟ご紹介

「和と奉仕」

医療と地域を結ぶ新たな「新病院」を目指して。



企画

新たな取り組み

心臓血管外科・ダヴィンチ手術(呼吸器外科・産婦人科)・脾臓センター・総合診療科・ゲノム診療科
アブレーション(循環器内科)

- 新年挨拶
- 新任医師紹介
- イベント報告

新年あけましておめでとうございます。旧年中は那覇市立病院の運営に多大なるご理解とご支援を賜り、心より御礼申し上げます。本年も地域の皆さまの健康と安心を守るため、職員一同、決意を新たに取り組んでまいります。

昨年、新病院棟が完成し、那覇市立病院は大きく生まれ変わりました。心臓血管外科の新設、呼吸器外科・消化器外科の強化、そして総合診療科の新設により、地域の皆さまにより高度で幅広い医療を提供できる体制が整いました。また、手術支援ロボット「ダヴィンチ」の導入、県内初となる放射線治療装置「TrueBeam EDGE」の稼働により、低侵襲手術や高精度がん治療など、先進的な医療も提供できるようになっています。救急医療では、救急初療室を4室に拡充し、感染症に配慮した動線設計を整えることで、より安全で迅速な受け入れが可能となりました。さらに、ICU(集中治療室)を12床へ増床、HCU(高度治療室)16床の新設を行いました。周産期領域でも体制を大きく強化しています。新たに導入したLDI室(陣痛・分娩・回復を同じ部屋で行う方式)では、出産のたびに部屋を移動する必

要がなく、妊婦さんの身体的・心理的負担を軽減できることが大きな特徴です。ご家族も同じ空間で付き添いやすく、落ち着いた雰囲気の中で「いつものお部屋の延長線上」で出産の瞬間を迎えていただけるよう工夫しています。そして、GCU(新生児回復室)12床の増床により、お母さんと赤ちゃんを切れ目なく支える体制を整えました。

一方で、医療を取り巻く環境は依然として厳しく、高齢化、人材不足、物価高騰など、公立病院の経営は大きな挑戦に直面しています。そのような中でも当院は、「地域の命を守る」というミッションを胸に、「働きやすく、学びやすい病院へ」というビジョンを実現し、職員が成長し続けられる組織づくりを進めてまいります。また、地域医療支援病院として、地域の医療機関との連携をさらに深め、地域全体の医療レベル向上に貢献していきたいと考えています。

本年も、那覇市立病院が地域の皆さまにとって「安心の拠り所」となれるよう、職員一同力を尽くしてまいります。引き続きのご支援を心よりお願い申し上げます。

地方独立行政法人 那覇市立病院 理事長兼病院長 外間 浩

中央医療部担当
副病院長
豊見山 直樹

診療部担当
副病院長
新垣 均

理事長兼病院長
外間 浩

看護部担当
副病院長
譜久原 明子

医療技術部担当
副病院長
宮田 裕史

患者支援部担当
副病院長
宮里 浩



新任医師紹介

新年のご挨拶に続き、新たに当院へ着任した医師をご紹介します。



呼吸器外科
いけだ なおき
池田 直樹 科長

前任の壱市立総合医療センターでロボット呼吸器外科手術を600例以上実施し、全国8位の実績でした。これからは沖縄で質の高い医療提供に精進してまいります。よろしくお願ひ申し上げます。信条:この一矢に定むべし



乳腺外科
うえだ まこと
上田 真 科長

2025年7月に当院に着任しました。離島を含めた県立病院で一般外科、乳腺外科、超音波検査に従事してきました。当院では乳房と甲状腺腫瘍の診療をします。バセドウ病の放射性ヨウ素治療も担当します。患者さんの要望を聞きできるだけ最良の治療をします。趣味は沖縄芸大の演奏会によく行きます。4種類の自転車を保っていますが最近は電動アシストばかり乗っていて他の人も乗らなきゃと思っています。



消化器外科
かとう こうじ
加藤 航司 医長

福岡県出身、2008年琉球大学卒業です。大腸がん診療を専門としています。特に、傷跡がほとんど残らない、単孔式腹腔鏡手術を得意としています。また、進行下部直腸癌に対しても経肛門的手術(taTME)を駆使し、確実な癌の根治と、可能な限りの肛門温存手術を実施しています。最適な医療を提供できるよう最善を尽くします。



乳腺外科
こうき あやこ
幸喜 絢子 医師

中部病院・中頭病院で初期後期研修を終え、中頭病院を中心、亀田総合病院、聖路加国際病院で乳腺外科を学びました。この度、那覇市立病院の乳腺外科医が不在となる状況をうけ、2025年5月より常勤として勤務させていただくこととなりました。整容性を意識した手術、標準的薬物療法など患者様へよりよい乳癌治療を提供できるよう努めています。



放射線科
ざは まやこ
座波 麻耶子 医師

2025年9月より当院で勤務することとなりました。放射線科専門医取得後、放射線治療専従として中頭病院、中部病院、琉球大学病院で研修を重ねてきました。趣味はバスケットボールを中心にスポーツ全般の観戦です。主治医、患者様、ご家族とコミュニケーションをとりながら、最適な医療提供ができるよう努めています。



脳神経外科
あらさき もりとし
新崎 盛敏 医師

那覇市立病院で初期研修後、琉球大学病院脳神経外科へ入局しました。趣味はスポーツ観戦と折り紙。那覇市立病院で2年勤務後、琉球大学病院1年、県立中部病院半年と勤務して那覇市立病院へ戻って参りました。脳神経外科としてまだ駆け出しが、日々精進していく所存です。よろしくお願いいたします。



内科
うえち やすひろ
上地 修裕 医師

東京女子医科大学病院・消化器内視鏡科で治療・診断学を学んできました。女子医大で学んだことを沖縄の医療に貢献できるよう頑張ります。よろしくお願ひします。



内科
とうやま まきこ
當山 磨貴子 医師

ハートライフで初期研修終了後、那覇市立病院で総合診療専攻医として勤務を開始し今年から正規職員として働かせていただきました。患者さんに寄り添い、医療スタッフの方と協力しながら丁寧に診療していくたいと思います。よろしくお願ひします。



産婦人科
うえはら みゆき 医師

産婦人科入局後、琉大病院、那覇市立病院、沖縄赤十字病院、中頭病院と勤務してまいりました。初期研修でもお世話になっている那覇市立病院で、再び働かせていただくことになりました。地域医療の中心病院として貢献できるように精一杯はたらかせていただきます。よろしくお願ひいたします。



新病院棟をご紹介します

ようこそ、新しい那覇市立病院へ

那覇市立病院新病院棟が2025年10月1日に開院いたしました。

新病院棟の概要やフロアの特徴や魅力をご紹介します。

新病院棟概要

新病院棟開設開院日	2025年10月1日
構 造	鉄骨鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造 (病院棟:免震構造)
階 数	地上10階建・地下1階
建 築 面 積	4,865m ²
延べ床面積	38,853m ²
病 床 数	470床 (一般病棟)
標榜診療科	36診療科 (2025年4月1日時点)

主な役割及び機能

- 救急告示病院
- 地域医療支援病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- 地域周産期母子医療センター
- 紹介受診重点医療機関 他

新病院棟フロアガイド 主な機能

10F	リハビリテーション室
5~9F	病棟
4F	血液浄化療法センター
3F	手術室/ICU/HCU 日帰り手術センター
2F	救急センター/放射線検査/ 内視鏡センター/健診センター
1F	受付/外来/検査/外来点滴センター 入退院支援室
B1F	放射線治療

デザインコンセプト ↓

結いをキーワードとした、
医療と地域を結ぶ新病院

安心して通える外来と頼れる救急センター

外来

1階の総合待合や外来待合には国産木材を用いた椅子やカウンターを配置し、温かみのある空間を演出しました。病院で過ごす時間が少しでも心穏やかになるよう、患者さんとご家族に寄り添う環境を整えています。

1F 総合受付



外来



救急センター(ER)

2階の救急センター(ER)は、365日24時間体制で急患に対応。救急搬送や直接来院された患者さんに、初期治療から手術・集中治療まで、一貫して迅速かつ丁寧な医療を提供しています。

2F ER入口



救急初療室



進化した画像診断と放射線治療

CT撮影装置

～2管球CTで迎える新たな世界～

特徴

- ①高速2重らせん撮影でブレを抑制でき、小児でも鮮明な撮影ができます。
- ②Dual Energy機能でCT診断の新たな領域へ(図1、図2)。病変の性質をより詳細に分析でき、診断精度が向上します。
- ③低管電圧撮影で造影剤投与量の低減が可能となり、身体への負担が軽減され、より安全に検査を受けられます。



図1. 急性期圧迫骨折の描出



図2. 肺動脈の血栓と肺血流低下域の描出

放射線治療装置

沖縄県内初導入の高精度な放射線治療装置であるTrueBeam EDGE(トゥルービームエッジ)とIMRT専用機のHalcyon(ハルシオン)があり、ほぼすべての外部照射治療が可能となっています。

TrueBeam EDGEによる治療を2026年1月より開始しています。主な特徴としては、照射したい箇所へのピンポイント治療が可能となりました。治療精度の向上および治療時間の短縮が可能となり、患者さんの負担軽減につながります。



TrueBeam EDGE



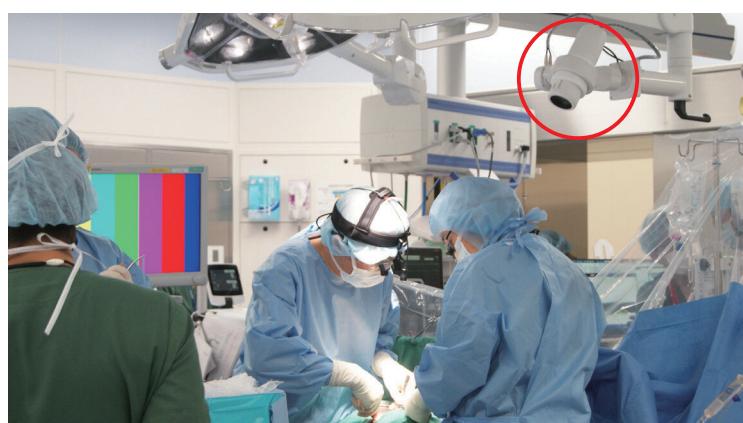
Halcyon

進化する手術室 映像管理システム

より安全で質の高い医療を提供するため、最新の「映像管理システム」を導入しました。

手術室の大型モニターには、手術中の映像や患者さんの状態を示す情報がリアルタイムで表示され、医療スタッフが速やかに確認できる体制を整えています。また、4K対応のため、内視鏡や顕微鏡など多様な映像を高精細で共有できるようになりました。

さらに、手術中の映像は電子カルテから確認可能で、映像や生体情報は集中管理され、個人情報保護にも十分配慮したうえで、長期保存されるシステムを構築しております。これにより、チーム医療の連携と安全で質の高い医療提供が可能になります。



手術の様子を記録・共有する映像管理システムのカメラ



映像管理システムによる各手術室のモニタリング



大型モニターで手術情報をリアルタイム共有

妊娠・出産・小児医療を支える ～新病院棟が目指す医療のかたち～

産婦人科

産婦人科病棟には、新たに「LDri室」を導入しました。LDri室とは、陣痛(Labor)、分娩(Delivery)、回復(recovery)までを同じ部屋で過ごせるお部屋です。移動の負担がなく、落ち着いた環境で出産に臨むことができるため、妊娠婦さんの身体的・精神的な安心につながります。医療スタッフがすぐ側にいる環境で、出産まで丁寧にサポートいたします。

また、当院ではご家族との時間も大切にしています。お産の立ち会いが可能なほか、産後は母児同室を基本とし、助産師が中心となって授乳方法や育児への不安に寄り添いながら支援します。助産師外来も設置し、妊娠初期から出産、産後まで切れ目のないサポート体制を整えています。

さらに、新病院では産婦人科医・小児科医が24時間対応できる体制を整備しました。妊娠・出産・子育てのすべての段階で、安心して医療を受けていただける環境づくりに努めています。

旧病院棟との比較

	旧病院棟	新病院棟
新生児集中治療室(NICU)	6床	6床
回復治療室(GCU)	6床	12床
産科個室	2床	11床
LDri	—	3床 新設

5F 産婦人科 LDri



小児科

小児科病棟は、お子さんや保護者の方が少しでも安心できるよう空間づくりにこだわりました。プレイルームは開放的で、自然光が差し込む明るい空間となっており、遊びや読書を通してお子さんがのびのびと過ごせる場所です。保護者の方もそばで見守りながら、安心してお過ごしいただけます。

病室の入口では沖縄にゆかりのある動物たちがやさしく出迎え、入院生活の不安や緊張を少しでも和らげる工夫をしています。

治療だけでなく、心のケアも大切にした病棟づくりを目指しています。

5F 小児科／プレイルーム



ヤンバルクイナ・ジュゴン
ムツゴロウなど
沖縄の動物をモチーフに
しています。



小児科／ドア



小児科／個室

療養環境と最新システムで 安心・快適な入院生活を

病室・個室

病室は、1床あたりの専有面積を広く確保し、プライバシーに配慮した落ち着いた空間を実現しました。個室数は以前の倍に増え、すべての個室にトイレやシャワーを完備しており、快適にお過ごしいただけます。

また、8・9階に配置された特別室は、シックで高級感のあるデザインが特徴です。シャワーやトイレに加えてミニキッチンも備わり、一般個室とは異なるゆとりある環境でお過ごしいただけます。窓からは那覇古島～安謝の景色を一望でき、遠くに海を望むこともできます。

入院という非日常の時間のなかで、少しでも安心して過ごしていただけます。細部まで配慮した部屋づくりを行いました。

5F 産科・個室



産婦人科のフロアには、バレーで明るく飾られたスペースもあります。



9F 特別室



特別室は、ミニキッチン付き！
シャワー・トイレ付きで
ゆったり療養できます。

一般病棟ではスマートベッドシステムを導入しています

ベッドサイド端末に専用機器をかざすだけで、体温や血圧などの情報が自動的に電子カルテに入力され、医療スタッフ間で迅速かつ正確に情報共有が可能です。ベッドモニターには、飲食状況や歩行、リハビリ時間などの情報がピクトグラムで表示され、どなたでもひと目で確認することができます。さらに、センサーによる転倒防止や体調急変の早期発見にも対応しております。安全で質の高い医療と、安心して過ごせる入院環境の両立を目指しています。

このように、新病院棟では快適さと安全性の両立を目指し、患者さん一人ひとりが安心して療養できる環境を整えています。



デイルーム

6階～9階の病棟には、開放感のある大きな窓が印象的なデイルームも設置しました。患者さんやご家族がくつろぎながら過ごせる、落ち着いた交流の場としてご利用いただけます。

入院生活の中で心の安らぎを感じらるる環境作りを大切にしています。

9F デイルーム



新たな取り組み

心臓血管外科

科部長 安元 浩



心臓血管外科が本格始動

地域の循環器医療を新たなステージへ

市民の皆様および連携施設の皆様には、日頃より多大なるご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

これまで那覇市立病院の心臓・血管疾患の診療には、循環器内科が中心となって対応してまいりました。

外科不在のなかでの診療により、皆様にはご不便をおかけしておりましたが、このたび2025年12月より心臓手術を開始し、心臓血管病の拠点病院として本格的に始動する運びとなりました。

これにより、循環器内科と心臓血管外科が一体となって診療にあたる体制が整いました。

この1年間、スタッフのトレーニングや医療機器の選定などを進めてまいりましたが、おかげさまで大きなトラブルもなく順調に経過し、医療チーム全体が確かな手応えと自信を深めつつあります。

今後は、さらに専門性を高め、那覇市立病院ハートチームとしての総合力を強化し、皆様のご期待にお応えできるよう努力してまいります。

那覇市立病院は現在、「Mission、Vision、Value」を掲げ、新たな出発を誓っております。

そのなかで私たちは、「我々は何を目的として存在し、何を成すべき組織なのか」という原点を常に意識し、循環器病診療を病院の重点施策の一つとして取り組んでまいります。

心臓血管外科および循環器内科として、私たちは右記の方針を基本として活動いたします。

循環器病診療は、各診療科・各職種の協働によって成り立つものであり、既存の枠を超えた組織づくりが求められます。

那覇市立病院としての強みを生かし、当院だからこそ実現できる医療の理想像を追い求めていきたいと考えております。

今後とも、皆様のより一層のご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

基本方針

医療連携ネットワークを基盤とし、地域に根差した循環器医療を推進する。

心臓病から末梢血管疾患まで、あらゆる循環器疾患に総合的に対応できる体制を構築する。

予防医療から急性期治療、さらにリハビリテーションまで、医療連携を生かした包括的な医療を展開する。



手術支援ロボット「ダヴィンチ」の活用が拡大

呼吸器外科

● 対象疾患／肺悪性腫瘍・縦隔腫瘍

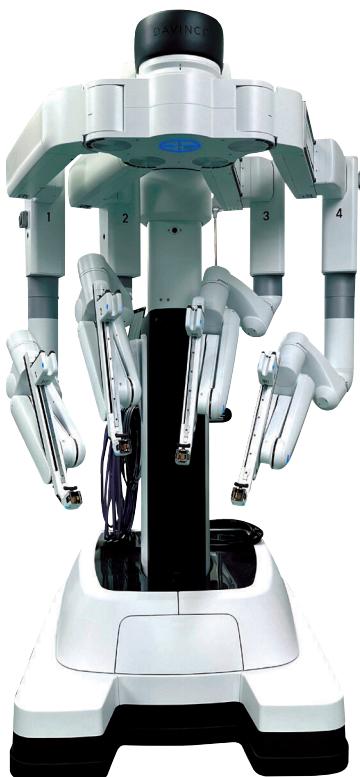
現在、沖縄県南部で唯一となる呼吸器外科領域のロボット支援手術を開始し、肺がんや縦隔腫瘍の患者さんに、より低侵襲で安全・精密な手術を提供しております。開胸・開腹することなく手術を行えるため傷口が小さいことも大きな特徴で、術後の回復が早く、入院日数も従来の開胸・開腹手術に比べ短くなっています。胸腔内の繊細な処置を安定して行える点も強みであり、今後も地域の先生方と連携し、安心して治療を受けられる体制づくりに努めてまいります。

科長 池田 直樹



手術支援ロボット ダヴィンチ

傷口が小さいため、患者さんの身体への負担が少なく、術後の回復が早いことが特徴です。



産婦人科

科部長 池宮城 梢



● ロボット支援下子宮全摘術を導入しました

2025年7月から産婦人科でもロボット支援下手術を開始しました。ロボット支援下手術は、産婦人科領域においても、創部痛の軽減、強拡視野下での合併症リスクの低減、高度肥満症例への対応、術後の回復の早期化や入院期間の短縮など多くの利点があります。新たな術式の導入により、患者さん一人ひとりに合わせた最適な治療選択が可能となりました。これからも安心・安全を追求しながら、地域の皆様の健康を支えてまいります。

対象疾患

大腸がん・肝臓がん・脾臓がん・前立腺がん
肺がん・婦人科良性疾患
／新たに開始しました！＼



新たな取り組み

脾臓センター

川畑 康成
肝胆脾外科
科長

沖縄の脾臓医療をリードする。 確かな技術と先進の治療。

～地域の中核病院として、高度な脾臓医療を提供します～

目的

那覇市立病院脾臓センターは、脾がんや脾炎などの脾疾患に対し、より専門的で高度な医療を提供することを目的に設立されました。早期発見から診断、治療までを一貫して行う体制を整え、県内外の医療機関と連携しながら、地域の皆さんに信頼される医療を目指しています。

センターの特徴と機能

当センターでは、脾臓専門医を中心に外科、消化器内科、放射線科、病理診断科など多領域のスペシャリストがチームとなり、それぞれの患者さんに合わせた治療方針を迅速に決定します。また、高精度CT・MRI・超音波内視鏡(EUS)など最新機器を備え、脾疾患の早期発見と精密診断を可能にしています。

外科治療では、身体への負担を抑える腹腔鏡手術やロボット支援手術に対応し、進行症例には血管合併切除再建や多臓器合併切除など高度な手術を駆使して根治を目指します。薬物療法や放射線療法を組み合わせた集学的治療にも力を入れ、切除不能と診断された場合でも治療の可能性を広げる取り組みを行っています。がん遺伝子パネル検査により、保険適用薬の提案や治験参加の選択肢も提供可能です。

院内外の連携

さらに、地域医療機関との密接な連携を行い、紹介・逆紹介体制を整備し、初診予約は原則5～10営業日以内と、迅速な外来対応を実施しています。がん専門看護師、薬剤師、栄養士、リハビリスタッフ、医療ソーシャルワーカーが連携し、受診から退院後まで切れ目のないサポートを提供します。

脾臓センターは、脾疾患に悩むすべての方へ高品質な医療を提供します。どうぞお気軽にご相談ください。



脾臓センターの主な医療サービス

- 急性・慢性脾炎の診断と治療
- 脾のう胞性疾患、脾神経内分泌疾患の診断と管理・治療
- 脾がんの早期発見・集学的治療(手術・化学治療・放射線療法・緩和ケア)
- 低侵襲(腹腔鏡下・ロボット支援)手術の提供
- 地域医療機関との連携による紹介・逆紹介体制の構築
- セカンドオピニオンの提供
- 脾がんゲノム医療の相談・検査・提供

総合診療科

まるごと診る

未来への地域医療を目指して

このたび新病院棟の開院に合わせ、「総合診療科」を新しく立ち上げました。医師2名という小さな体制ですが、地域の先生方と協力しながら、少しづつ役割を広げていきたいと考えています。当院の理念である「和と奉仕」を大切に、患者さんや地域にとって身近で相談しやすい科を目指します。

当科のモットーは三つあります。第一に、内科を含む幅広い“病気全般”を診ることです。「症状はあるがどの科へ行けば良いかわからない」「複数科にまたがり診断がつかない」といった患者さんを気軽に受け入れ、初期評価を行います。

第二に、“人全体”を診ることです。同じ病気でも背景にある生活環境や価値観はさまざまです。単に臓器の問題を追うだけでなく、その方の暮らしや困りごと、治療を進めるうえでの障害なども含め、一緒に考える診療を心がけています。

医長 湧川 朝雅
医師 當山 磨貴子

第三に、将来的には“地域全体”を支える存在になることです。外来・急性期・在宅・介護が切れ目なくつながることで、患者さんの負担は大きく減ります。当科はその橋渡し役として、院内外の多職種や地域の先生方と連携しながら、より良い医療の流れをつくりたいと考えています。

「診断がつかず困っている方」「多疾患併存で整理が必要な方」「医療と生活の問題が複雑に絡む方」など、判断に迷うケースはぜひ当科へご相談ください。必要な検査や鑑別を整理し、最適な専門科へ確実につなぎます。些細な症状でも構いません。

地域の皆さんのお役に立てるよう、誠実に取り組んでまいります。どうぞ今後ともよろしくお願ひいたします。



総合診療科 医師一同（左から 玉城、當山、湧川、宮城）

新たな取り組み

ゲノム診療科

医長
仲村
理恵

遺伝の“気になること”相談できます

「ゲノム診療科」は、遺伝子やゲノムの変化によって起こる様々な疾患や体質を持つ患者さんとご家族に対し、遺伝カウンセリングを行います。臨床遺伝専門医が遺伝学的な情報を提供し、患者さんやご家族の不安・疑問など様々な思いに寄り添いながら、疾患や体質に関わる診断・治療についての意思決定をお手伝いする診療科となります。

対象となる方は疾患や体質を持つ患者さんのみならず、そのご家族(血縁者)の遺伝カウンセリングも可能です。時間をかけカウンセリングを進めていくため、完全予約制で、診療時間は約60分を要します。基本的に遺伝カウンセリング料金は自費診療になります(一部保険診療)。

那覇市立病院ではゲノム診療科が関連する疾患の専門科・他職種(看護師・心理士)とも密に連携し、最適な遺伝診療を提供できるよう努めています。

相談できる主な診療内容

- ①遺伝性疾患・先天異常症の相談・診断
- ②出生前診断
(NIPT非侵襲的出生前遺伝学的検査など)
- ③高年妊娠や次子の遺伝についての相談
- ④遺伝性腫瘍の相談・診断
- ⑤がんゲノム医療
(がん遺伝子パネル検査など)

相談の具体例

- 乳がんと診断されたが、娘にも遺伝しますか？
- 結婚し子どもを希望していますが、親戚から高年妊娠はリスクがあると言われて心配しています
- 妊娠しましたが、出生前検査で胎児の異常を調べることはできますか？
- 兄が遺伝性疾患と診断されています。私の子どもにも兄と同じ疾患が起こる可能性がありますか？

このような不安・疑問について、遺伝カウンセリングを行います。まずはお気軽にご相談ください。ゲノム診療科の遺伝カウンセリング希望の際は、地域連携室を通してご予約ください。



医師プロフィール

職歴　琉球大学病院 産科婦人科

専門分野 産婦人科遺伝診療、遺伝性腫瘍、生殖内分泌

認定・資格 医学博士

臨床遺伝専門医

日本産科婦人科学会 産婦人科専門医・指導医

母体保護法指定医

日本がん治療認定機構 がん治療認定医

認定がん・生殖医療ナビゲーター



循環器内科

心房細動の最新治療

～アップルウォッチで発見！パルスフィールドアブレーションで治す!!～

心房細動は高齢になるほど増える「ありふれた病気（Common disease）」で、日本では100万人以上が発症しているといわれています。動悸や息切れなどの症状が出ることもありますが、自覚がないケースも多く、早期発見が重要です。手首の脈を触れる検脈、不規則な脈を確認する心電図、自動血圧計やアップルウォッチなどの不整脈検出機能（図1）が有効です。心房細動は脳梗塞・心不全・認知症のリスクを高めるため、適切な治療が必要です。**最新治療として注目されているのが「パルスフィールドアブレーション（PFA）」です。**

パルスフィールドアブレーション（PFA）は、最新の心房細動カテーテル治療で、従来の“焼く”・“凍らせる”といった熱エネルギーを使う方法とは異なる、新しい仕組みの治療です。短い高電圧パルスを心房に流すことで心筋細胞のみを選択的に傷つけ、心房細動の原因となる電気の通り道を遮断します。周囲の臓器を傷つけにくく、治療時間が短いことから身体への負担が少ないと期待されています。成績も従来法と同等以上と報告され、安全性と効率の面で注目される治療法です。（図2）

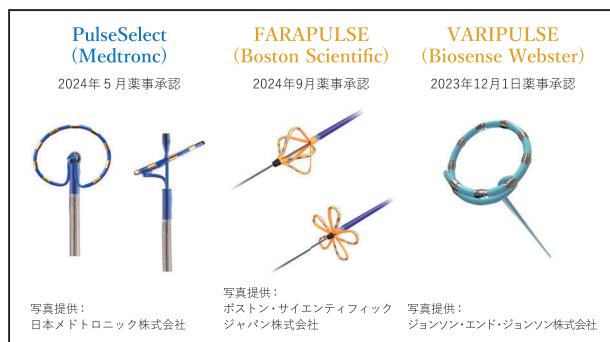


図2.心房細動に用いる最新のパルスフィールドアブレーション

心房細動でお悩みの方へ

こんな症状・不安はありませんか？

- 動悸や息切れが続く
 - アップルウォッチで心房細動の疑いと表示された
 - 脳梗塞が心配だが、どの治療を選んだらいいのか不安
 - 心不全や認知症にならないか心配
- ...といった方は、一度ご相談ください。

総括科部長 間仁田 守

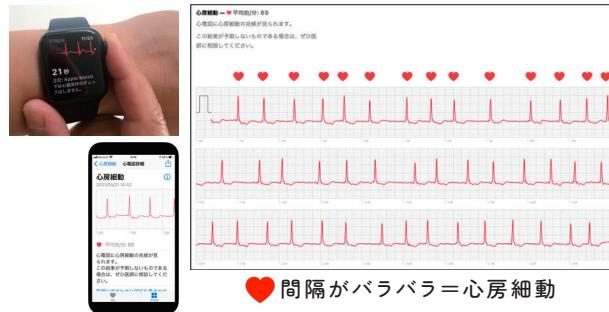


図1.アップルウォッチで心房細動発見

当科の特色

那覇市立病院循環器内科は、現在日本国内で使用可能な3種類すべてのパルスフィールドアブレーションカテーテルを導入している県内唯一の医療機関です。

これにより、患者さんそれぞれの心臓の形、左房や肺静脈の形態、心房細動のタイプ（発作性／持続性）に合わせて、最も適したカテーテルを選択できます。従来の高周波アブレーションやクライオバルーンアブレーションも含め、複数の治療オプションの中から、その方に合ったオーダーメイド治療が可能という大きなメリットがあります。

また当科では、心房細動アブレーションの経験豊富な循環器専門医（不整脈専門医）を中心に、多職種がチームとなって治療にあたっており、安全性に配慮しながら、最新の治療を地域の皆さんに提供できる体制を整えています。

治療・サポート内容

早期発見	スマートウォッチなどのデバイスも活用し、心房細動の早期診断に努めています。
抗凝固療法	脳梗塞予防のため、DOACを中心とした適切な薬物治療を行います。
脈のコントロール	β遮断薬などによる脈拍管理で症状を安定させます。
カテーテル治療	最新のパルスフィールドアブレーション（PFA）を含む最先端の治療を提供します。

新たな取り組み

2026年
4月

看護師特定行為研修を開講予定です。

2040年に向けた高齢者の増加と人口減少により、医療ニーズの拡大と医療従事者の働き方改革への対応が求められています。その中で、医師の判断を待たず手順書に基づき一定の診療補助(特定行為)を行う看護師の役割は、急性期医療・在宅医療の双方で重要性が高まっています。特定行為研修を修了した看護師は、高度な判断力と専門的実践能力を備え、患者さんの状態変化に迅速に対応できることから、地域包括ケアシステムの推進やタスクシフトにも大きく貢献します。

現在10名の特定行為研修修了者が在職し、急性期の人工呼吸器の設定調整、褥瘡のデブリメント等、手順書に沿って特定行為を実践、患者さんの状態に応じた質の高い医療提供に寄与し臨床の場で活躍しています。

PICCの挿入においては、医師より「大変助かっている。」との声も聞かれ、医師及び看護師の業務負担軽減にも繋がっています。また、RRS活動やスタッフ育成においても中心的役割を担い、看護師の臨床能力向上にも貢献しています。



褥瘡処置(デブリメント)



抹消挿入型中心静脈カテーテル挿入

当院は、急性期病院として多様な臨床場面で医療安全を確保し、自律して専門性を発揮できる看護師の育成を目指し、『看護師特定行為研修』を開講予定です。

本研修は院外からの受講生も募集しておりますので、本研修をご活用いただき、今後の人材育成にお役立ていただけましたら幸いです。

特定行為研修を通して、患者さんを中心としたチーム医療をより強化し、急性期から在宅まで一貫したシームレスな医療提供を実現していきたいと考えております。



抹消挿入型中心静脈カテーテル挿入前のエコー検査

募集要項

研修期間 2026年4月1日～2027年3月31日

定員 8名

願書受付 2025年12月15日～2026年1月16日
(当日消印有効)

受験資格

- 日本国内における看護師免許
- 通算5年以上の看護実務経験
- 他



受講生募集については
当院HPからもご覧いただけます。

開講領域別パッケージ、区別研修

領域別パッケージ研修

● 救急パッケージ(院内職員)

区別研修

- 呼吸器(人工呼吸療法に係るもの)関連
- 動脈血液ガス分析関連
- 栄養及び水分管理に係る薬剤投与関連
- 栄養に係るカテーテル管理(末梢留置型中心静脈注射用カテーテル管理)関連

イベント報告

10月は「臓器移植普及推進月間」—新病院棟で初のグリーンライトアップを実施しました—



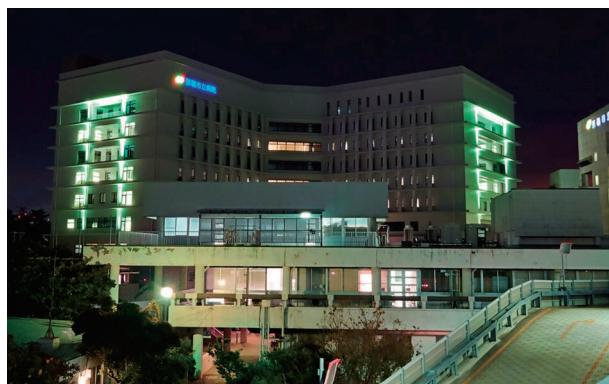
毎年10月は、臓器移植への理解と意思表示の重要性を広く呼びかける「臓器移植普及推進月間」です。臓器移植のシンボルカラーである“グリーン”は、いのち・希望・再生を表し、全国各地で建物などが緑色にライトアップされます。当院でも2021年よりこの取り組みに参加しており、臓器提供者（ドナー）とそのご家族への感謝を込めて毎年実施しています。

今年は新病院棟に移転して初めての開催となり、外観を包む柔らかなグリーンライトを「いのちをつなぐ希望の光」として、多くの地域の皆様へ届けることができました。

現在、日本では移植を待つ患者がいる一方で、臓器提供者は依然として不足しています。当院は県内拠点病院として、医療機関との連携体制や人材育成を進め、移植医療を支える

環境づくりに取り組んでいます。

臓器提供の意思表示は、マイナンバーカードや運転免許証の裏面で表示でき、ご家族との話し合いも大切です。グリーンライトアップが皆様の考えるきっかけになることを願っています。



11月は「オレンジリボン・児童虐待防止推進キャンペーン」月間です



月間に合わせて11/1（土）に（一社）OCFSが主催するオレンジリボンたすきリレー沖縄2025が開催されました。

この取り組みは子ども虐待防止の象徴である「オレンジリボン」をたすきに仕立てリレーすることで、皆の心を一つにすれば大きな力になることを証明し、「子ども虐待防止」を市民の皆さまへ呼びかけその実現を目指すことを目的とした啓発活動です。

当日は当院で中間地点セレモニーが行われ、当院職員医師8名、研修医1名、看護師8名、MSW6名の合計23名もランナーとして参加しました。多くの応援の方々も集まりランナーへ声援が送られ、子どもたちの安全と未来を守るという思いとともにたすきを繋ぎました。

同期間に病院をオレンジライトで照らし、

また、1階ロビーにてクリスマスツリーにオレンジ色のリボンを飾ってもらうブースを設置しました。たくさんの方にリボンを飾っていただき、クリスマスツリーがきれいなオレンジ色に彩られました。

この取り組みをきっかけに多くの方に「子どもたちの安全と未来を守る」思いが広がればと思います。





登録医紹介

当院の連携登録医を紹介しています

当院は病診連携を一層推進するために登録医制を設けております。

お問い合わせは地域医療連携室まで！ TEL.098-884-5134(直通) FAX.098-886-5502

シーサー通り内科リハビリクリニック

診療科目

- 一般内科
- 脳神経内科
- リハビリテーション科
- 各種検査
- ニューロリハビリテーション
- 頭痛・めまい
- 認知症・物忘れ
- 生活習慣病
- 健康診断

●予防接種・ワクチン

●その他自由診療



受付時間／曜日	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～13:00	○	○	/	○	○	○*	/	/
14:00～17:00	○	○	/	○	○	○*	/	/

休診日：水曜日、日曜日、祝祭日

※土曜日は8:30～12:00／13:00～16:00



院長 城本 高志

当院は、一般内科・脳神経内科・リハビリテーションを中心に診療を行い、皆様が健康で幸せな生活を永く送れるよう全力でサポートいたします。

2025年7月、那覇市銘苅と浦添市内間の境にある「シーサー通り」に新規開院いたしました。

一般内科では、発熱などの風邪・胃腸炎・高血圧・糖尿病・脂質異常症など、一般内科から動脈硬化リスクに関わる幅広い疾患を診療し、脳神経内科では、頭痛・認知症・脳卒中予防・パーキンソン病などの専門的な診療を行っています。

住所／沖縄県那覇市銘苅211-17 メディカルプラザめかる3F

TEL.098-866-4315

予約専用 ダイヤル TEL.050-1807-6316

貴恵女性のクリニック

診療科目

- 婦人科
- 月経困難症
- PMS(月経前症候群)
- 一般不妊治療
- 骨密度検査（骨粗鬆症：DEXA導入）
- 各種検診
- コルポスコピ検査（子宮頸がんの精密検査）
- HPVワクチン接種（子宮頸がんワクチン）
- 更年期障害
- 医療脱毛



受付時間／曜日	月	火	水	木	金	土	日	祝
9:00～12:00	○	○	/	○	○	○	/	/
13:00～17:00	○	○	/	○	○	○	/	/

最終受付：午前11時／午後16時(診療内容により変更あり)

休診日：水曜日、日曜日、祝祭日

駐車場55台完備／女性医師女性スタッフ／ご予約優先診療



院長 儀間 貴恵

私は琉球大学医学部を卒業後、産婦人科医師として地域の病院で研修を重ねました。その間、母の更年期障害をきっかけに、女性の一生を通じたヘルスケアの重要性を強く感じました。

妊娠を希望されている方はもちろん、「将来のために自分の体の状態を知っておきたい」という方も、ぜひお気軽にご相談ください。一人ひとりに合った方法を、一緒に考えていくればと思います。地域の女性が健やかに、笑顔で毎日を過ごせるよう、スタッフ一同心を込めてサポートいたします。

住所／沖縄県那覇市銘苅211-17メディカルプラザめかる2F

TEL.098-894-2328